

再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：国道・技術課

担当課長名：東川 直正

事業名	地域高規格道路 <small>じょうそう うつのみやとうぶれんらくどうろ</small> 常総・宇都宮東部連絡道路 一般国道408号 <small>も おかみなみ</small> 真岡南バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	栃木県
起終点	自：栃木県真岡市寺内 <small>も おかし てらうち</small> 至：栃木県真岡市長田 <small>も おかし ながた</small>	延長	3.1km		
事業概要 常総・宇都宮東部連絡道路は、首都圏中央連絡自動車道、北関東自動車道、東北縦貫自動車道などの高規格路を補完し、茨城県の土浦・鹿島地域集積圏と、小山・下館地域集積圏及び栃木県中央・北部地域集積圏との広域交流を促進する延長約100kmの地域高規格道路である。 真岡南バイパスは、常総・宇都宮東部連絡道路の一部を構成する、延長3.1kmの道路である。					
H26年度事業化	H25年度都市計画決定	H27年度用地着手	H28年度工事着手		
全体事業費	約87億円	事業進捗率	約54%	供用済延長	— km
計画交通量	8,500～14,100台/日				
費用対効果分析結果	B/C： (事業全体) 2.2 (残事業) 4.7	総費用： (残事業)/(事業全体) 42/90 億円 (事業費：39/87億円) (維持管理費：3.0/3.0億円)	総便益： (残事業)/(事業全体) 194/194億円 (走行時間短縮便益：165/165 億円) (走行経費減少便益：21/21 億円) (交通事故減少便益：8.1/8.1 億円)	基準年： 平成30年	
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.9～2.4(交通量±10%) 事業費：B/C=2.1～2.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.1～2.2(事業期間±20%) (残事業) 交通量：B/C=4.2～5.1(交通量±10%) 事業費：B/C=4.3～5.1(事業費±10%) 事業期間：B/C=4.5～4.6(事業期間±20%)					
事業の効果等 渋滞緩和による交通の円滑化、現道交通のバイパスへの転換による交通事故の減少及び鬼怒川左岸地域の産業支援を図る。					
関係する地方公共団体等の意見 宇都宮市、真岡市、高根沢町の2市1町による常総・宇都宮東部連絡道路・鬼怒テクノ通り整備促進期成簿同盟会より、建設促進が要望されている。					
事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率約54%、用地取得率約91%（平成30年度末時点）					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 今後は2020(H32)年度の開通を目指し、道路改良工事を推進していく。（暫定2車線）					
施設の構造や工法の変更等 再生骨材、再生アスファルト合材と活用し、コスト縮減を図る。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	以上の事業効果、進捗状況、事業評価委員会の意見などを踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。				

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。